

みんなで学び、守り、未来につなぐ谷津田

市民×学生×専門家の協働による新しい農地保全

立正大学谷津田イノベーション研究会 地球環境科学部 佐藤 響平

研究背景

埼玉県熊谷市にある谷津田は、高齢化と担い手不足により耕作放棄が進み、景観の悪化や生物多様性の低下が課題となっていた。また、持続的な農地管理には、人手だけでなく専門知識も必要であり、一主体だけでは対処できない状況にあった。本取り組みでは、市民・学生・専門家が協働して谷津田を再生し、再び放棄されることがないように、市民活動や学術研究の場として積極的に活用し続けることで、地域に支えられた保全体制の形成と意識づけを図った。

研究目的

市民活動



学術研究



谷津田の持続的な維持

【小学生の田植え・収穫体験】

【ドローンを用いたイネや土壌の調査】

保全体制の形成と意識づけ

研究対象地

谷津沼(やつぬま)

埼玉県の比企丘陵にある200個以上のため池

谷津田(やつた)

谷津沼に涵養した雨水だけで栽培を行う水田



比企丘陵の天水を利用した谷津沼農業システムとして2023年に日本農業遺産に選定されたよ！

ステークホルダー

谷津田イノベーション研究会
(大学研究機関)

NPOクマガヤ
(民活動支援センター)

馬と暮らし学舎
(児童保育)

小原宮農
(地元農事組合)

権田酒造
(地元酒蔵)

埼玉福興
(ソーシャルファーム)

Café co.8
(オーガニックカフェ)

Creative Power Garage 101
(アート)

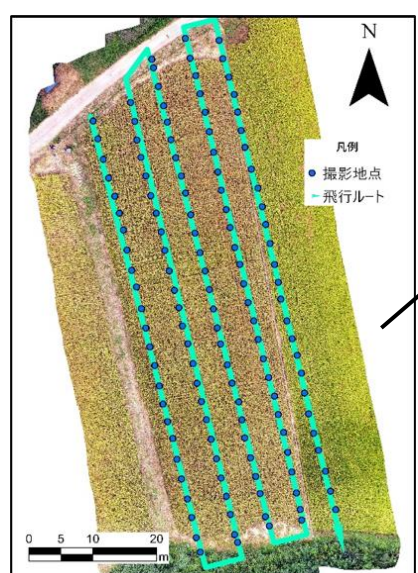
谷津田

活動内容

谷津田の1年間



4月



実地調査

(ドローン飛行)

6月



田植え

10月



収穫

12月

これまでの取り組み



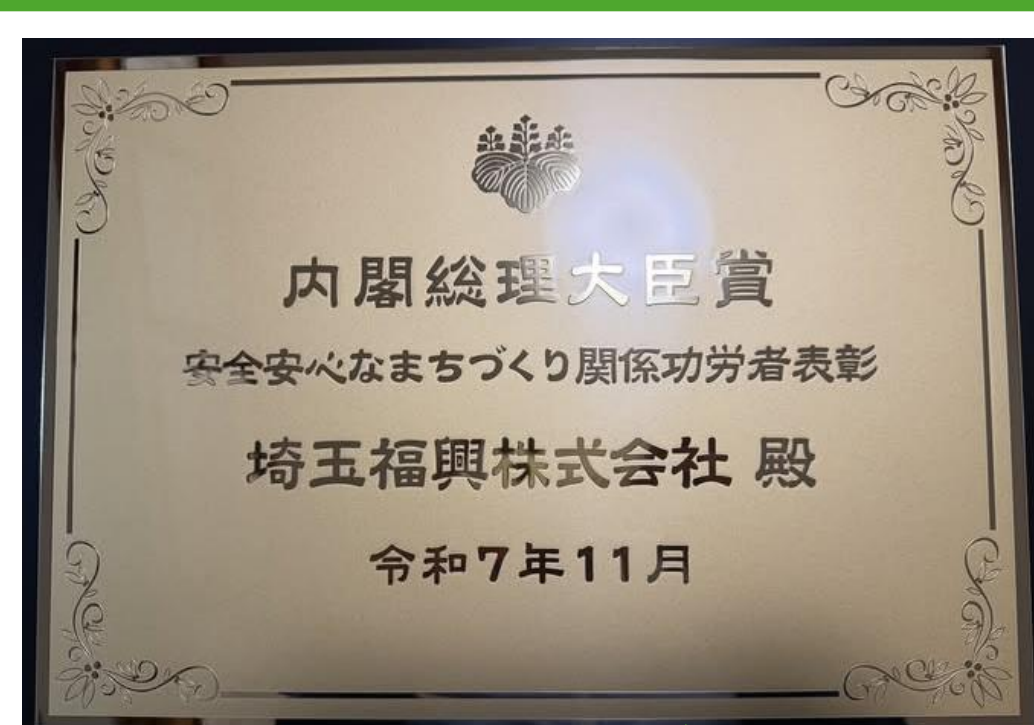
2019年頃から現在まで

様々なメンバーの力を借りて谷津田を維持してきた

活動実績

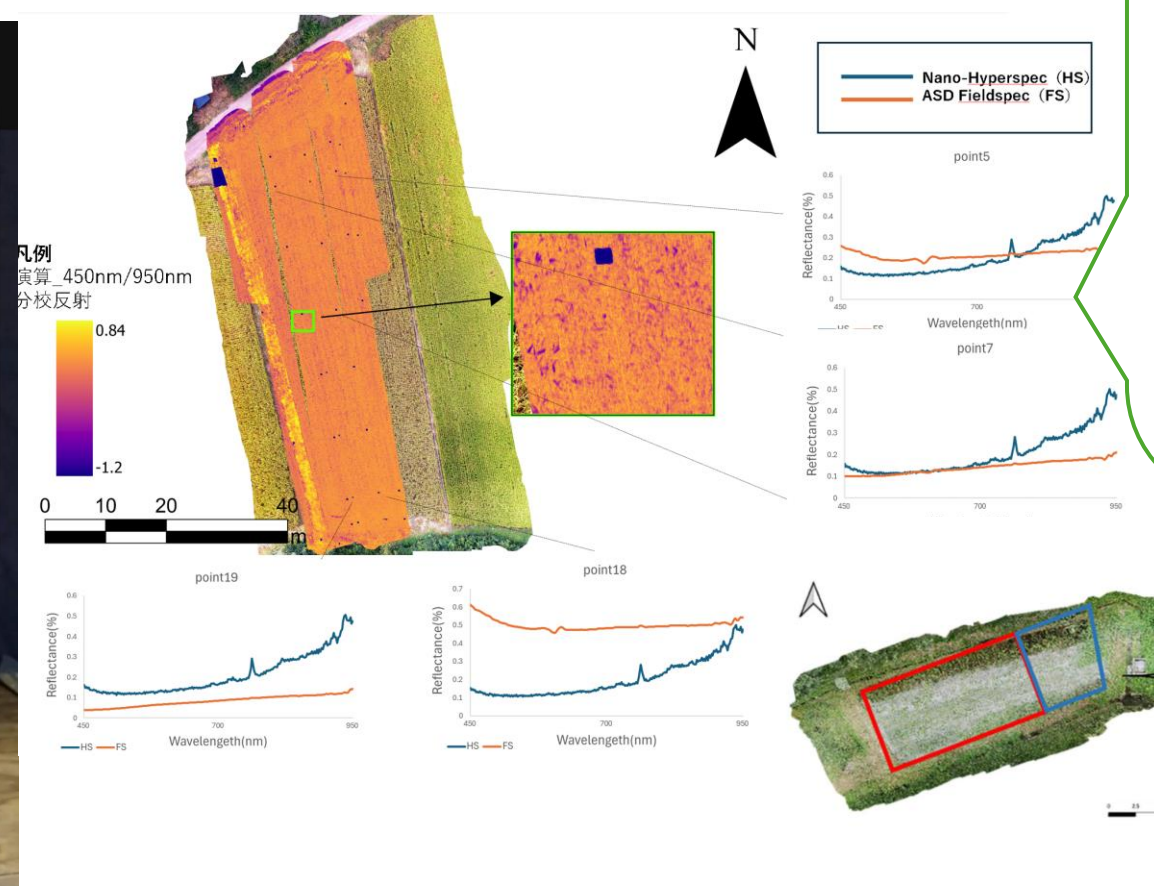


地域の子供たちへの
情操教育・文化の継承



谷津田を用いた米作りの評価
農事組合法人 小原宮農
農林水産大臣賞受賞

新たな価値の創出
地元酒造と協力して贈呈用の日本酒を製造



ドローン
×
スペクトルセンサ

土壌成分の推定
イネの生育状況の
把握について
多数の学会で発表

まとめ

本取り組みでは、市民・学生・専門家が協力して谷津田を守り、田植え・収穫体験とドローン等の技術を駆使した学術研究を組み合わせることで、環境にやさしい稲作と学びの場を両立させ、活動メンバーが入れ替わりながら5年以上活動を継続してきた。今後は得られた知見を他地域へ共有し、「みどりの食料システム戦略」がめざす持続可能な農業と農村づくりに貢献していきたい。